

2020年12月11日

各位

三井住友ファイナンス&リース株式会社

ベンダーリースのデジタル化について

三井住友ファイナンス&リース株式会社(取締役社長:橋 正喜、以下「SMFL」)は、中小企業向け小口販売金融(以下、ベンダーリース)事業に電子契約を導入することで、リース申し込みから契約締結まで一連のビジネスプロセスのデジタル化を進めます。

SMFLでは、リース取引の申し込みをWeb上でを行い、先進的なデータサイエンスを用いた自動審査で取引の可否を判断するシステムを自社開発し、既にベンダーリースビジネスへ導入しています。このデジタルソリューションをさらに進め、取引可能となった申し込みについては、電子契約で締結を行います。電子契約システムは、SMBCクラウドサイン株式会社が提供する電子契約サービス『SMBCクラウドサイン』を起用します。この新たな機能は、2021年1月からの実装を予定しています。

本件により、リース申し込みから、与信判断、契約締結に至るまで、ベンダーリース取引における一連のプロセスの一气通貫でのデジタル化が実現します。契約書類への印鑑押印に関わる出社業務が無くなるとともに、契約書類の契約先への持参ないし郵送や回収に関わる業務が無くなり、リモートワークや災害時など緊急事態における事業継続計画(BCP:Business Continuity Plan)への対応が可能になります。販売会社(以下、サプライヤー)、ユーザー、当社の3者間における、一連のビジネスフローがデジタル化され、大幅なスピードアップ、事務負担軽減、コスト削減が図れます。

また、今回の契約電子化と併せて、ユーザーの契約手続きをサポートするWeb会議システム(以下、assetforce live)をユーザーに提供します。パソコンやスマホなどモバイル端末でのビデオ通話やチャットを介して画面を見ながら、契約に関するデータ入力や不備訂正などの助言を行います。さらに、商談プロセスのデジタル化を進めており、このビデオ通話やチャットを活用したリモート商談ができるassetforce liveをはじめとする新たなプラットフォームを開発し、サプライヤーやユーザーへの提供を予定しています。

SMFLは、デジタル分野に強みを持つ旧日本GEのリース事業(SMFLキャピタル株式会社に社名変更)との統合を経て、デジタル先進企業を宣言し、デジタルをエッジとしたビジネスの変革を推進する企業を目指しています。これからも、刻々と変化するビジネス環境におけるデジタルシフトを加速していきます。

以上

【お問合せ先】

三井住友ファイナンス&リース株式会社 企画部 広報IR室 五十嵐 TEL 03-5219-6334